

2017年11月

論文集の英語表記について

学術レビュー委員会

本会論文集では、すでにご存じの通り、今年の1月以降受付の原稿に対して、図表のキャプション、図表内の用語、参考文献の英語表記あるいは日本語と英語の併記が義務付けられました。このような変更がなされた理由は以下の通りです。

- ・大学などの学術研究組織では、**Science Citation Index (SCI)** に登録されているジャーナルでの論文発表が重視されている。**SCI** ジャーナルのほとんどは英文ジャーナルであるが、日本語の論文誌でも、図表と参考文献が英文の論文集が登録されている。
- ・構造系論文集と環境系論文集は、世界最大の学術論文データベースである **Scopus** に登録されており、海外の研究者から検索可能である。しかし、海外への情報発信を意味のあるものとするためには、図表と参考文献の英文化が必要不可欠である。また、**Scopus** を基にしたランキングである **Scientific Journal Ranking (SJR)** でのランクを上げるためにも、図表と参考文献の英文化が必要不可欠である。
- ・英文ジャーナルの論文で建築学会論文集の論文の引用を試みた際、査読者あるいはエディターから、日本語の論文を引用するべきではないという指摘を受ける場合が多い。しかし、英文の **SCI** ジャーナルの論文からの引用が少なければ、建築学会論文集が **SCI** に登録される可能性は極めて少なくなる。

学会では、来年から、英文ジャーナル (**Japan Architectural Review**) を発行し、さらに、**JAABE (Journal of Asian Architecture and Building Engineering)** の発行も継続します。しかし、建築学会論文集が **SCI** に登録されることは、学会員の皆様の研究の価値が、国際的に、あるいは大学内で認められることとなります。

以上の理由により、図表と参考文献の英語表記について、ご協力お願いいたします。